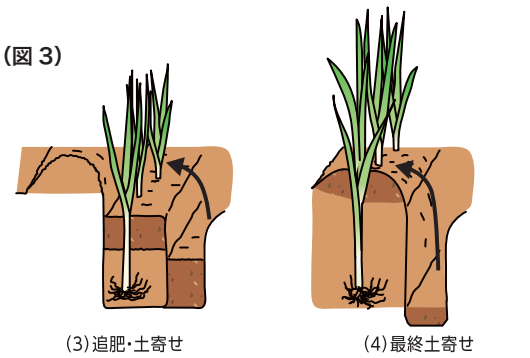
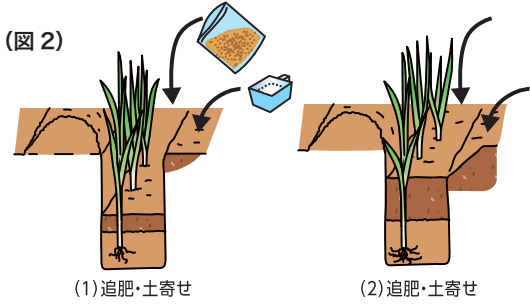
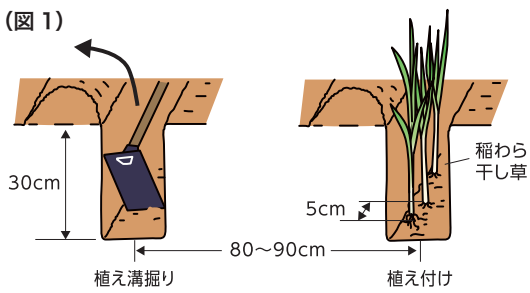


チャレンジ！
野菜づくり
根深ネギの植え付けと
その後の管理の要点

3月頃に種まきした根深ネギ（白ネギ）の植え付けは、苗の太さが1cm内外に育った7月中旬〜8月上旬が適期です。

大きく育った苗には、この頃にネギアザミウマやアブラムシなどの害虫やさび病、べと病などが発生しやすいので、苗床に殺虫剤や殺菌剤を散布して防除しておきます。ネギの葉は薬剤が付きにくいので、



展着剤を加えることが大切です。

苗床から苗を抜き取る時には、根元にくわを打ち込み、根をたくさん付けるよう配慮して行います。

抜き取った苗は、大、中、小ぐらいに分けて植え付けます。こうすると畑で土寄せ、追肥をするときに、大きさに別けて区別して行うことができ都合です。

植え付けに当たっては、まずきちんとした植え溝を作ることが大切です。列の間隔を80〜90cm取り、くわ幅の30cmぐらいの深さの溝をきちんと作りましょう(図1)。

溝が崩れないよう上手に作るには、前作が終わったら前作の残さや草などを片付け、耕やさないで表面を硬くしておくことです。

大きさをそろえた苗は、階級ごとに3〜4cm間隔に、壁面に立て掛けるようにして垂直に植え付けます。

植えた後、根元に2cm程度の土を掛け、苗が倒れないよう根元を足で踏み付けておきます。その後すぐに溝いっぱい稲わら、干し草などを入れ、倒れないよう、また夏の乾燥、防暑を図ります。植え付け時には肥料はまったく与えず、もっぱら新根の発生を促します。次は、追肥と土寄せ管理です。

夏の暑さが遠のき始めるとネギは生育を始め新葉が増えてきます。この頃、溝の肩の部分に肥料(化成肥料・有機配合など)を施し、くわで軽く土と混ぜ合わせて溝の中に落とし込みます(図2)。

9月下旬頃からは盛んに生長しますので、15〜20日おきに第2回、第3回と追肥、土寄せを行います(図3)。全体的には追肥の重点は前半期に、土寄せは後半に、長い軟白部ができるようにします。

台風・強雨に見舞われたら、早めに畑を見回り、植え溝内の排水を図ります。ネギの根は乾燥には強いのですが、湿害には大変弱いので、対策は急を要します。風による倒れは曲がりの原因になりますので、できるだけ早めに起こすことが大切です。

肥料・農薬のご紹介

試してみよう！
便利な展着剤！



農薬を散布しても葉や害虫に付着せず、多くが流れ落ちてしまうことがありません。これは野菜や害虫の表面に水を弾くワックスや糸状の物質があるためです。特に付着しにくい作物にネギやキャベツ等があげられます。

そんな時に便利なのが展着剤！展着剤の主成分である界面活性剤が、農薬の付着性と浸透性を高め、農薬の効果を安定させる働きがあります。いつもの散布作業に展着剤を加えてみましょう！

なお、使用方法や農薬によって様々なタイプがあります。

■殺虫殺菌剤用
グラミンS・アプローチB

■殺菌剤用
スカッシュ

■茎葉処理除草剤用
クサリノー・サーファクタントWK
サーファクタント30

どれを使うか迷った時はお気軽に各営農センター(営農購買課)までお問い合わせください。